

HOKUSEI@COM

2012·OCTOBER

vol.14

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE AUTUMN EDITION

北星学園大学 北星学園大学短期大学部



02-03

[特集]
夕張市長
鈴木直道さん
インタビュー



02-03

苦しみを乗り越えた
経験を糧に、
夕張に人生を賭ける。

夕張市長
鈴木直道さん



04-05

[北星学園大学開学50周年]

北星学園大学は
半世紀の時を超えて
未来へ歩み続けます



06

[OB&OG インタビュー]

卒業生は、いま。
旅行ジャーナリスト
小野寺 淳子さん

いい温泉、
いい人生、
満喫中。



07

[先生たちのその素顔]
社会福祉学部 今川 民雄先生

苦しみを乗り越えて
成長する人間の
心を見つめて。



08

[土橋信男先生を偲んで]

教育に生き、
世界を見つめた76年。

★故 土橋信男 学校法人北星学園理事長
追悼の言葉
★「国際交流の北星」育ての親として



[特集] INTERVIEW

夕張市長 鈴木直道さんインタビュー

苦しみを乗り越えた 経験を糧に、 夕張に人生を賭ける。

財政破綻からの再生をめざす夕張市の未来に、
自らの人生を賭けた全国最年少市長・鈴木直道氏。
先日は北星学園大学開学50周年記念公開講座の講師としてもお招きし、
本学で講演をしていただきました。
それに先立ち、ふたりの学生が夕張市役所を訪れ鈴木市長にインタビュー。
都庁に勤務しながら体育会の主将も務めたハードな学生生活や、
厳しい市長選を乗り越えてきた若き市長のお話は、
就職を控えたふたりにとって、とても参考になったようです。

真価が問われる、夕張再生の道。

中塚: 夕張の再建に向けた取り組みは国内外から注目を集めていますが、その点についてどのようにお考えですか?

鈴木: ギリシャ危機の背景には財政運営体質の問題がありますが、日本には地方交付税制度があり、どの地方自治体でも一定の財源を調整・確保しています。こうした財政調整制度があるのに、なぜ夕張は破綻したのか?なぜ17年間もの長期間財政難が続くのか?という点に関心が集まっているようです。世界的に注目される事例だからこそ、地域再生のモデルケースとしての真価が問われる重みを感じています。

中塚: 夕張は約44%が65歳以上の高齢者と聞いています。若い世代が夕張に定着するためには雇用の確保が不可欠だと思われますが、若年層を流出させない構想などはありますか?

鈴木: じつは複数の国内メーカーが生産拠点を夕張に移しており、雇用促進に努めています。問題は住環境。夕張の人口は炭鉱最盛期の1960年に11万人を超え、炭鉱住宅の数もピークに達しました。炭鉱閉山後は市が炭鉱住宅を引き取り公営住宅としましたが、人口は急速に減少。現在は人口1万500人弱、世帯数5,700世帯以下に対して公営住宅は3,800戸と、一人当たりの公営住宅所有率が日本一高くなっています。ところが公営住宅の入居条件は、私が入居していたところで年収220万円以下など、法令で定められているので、ほとんどの給与所得者は入居できません。一方、民間賃貸住宅は約100戸しかなくほぼ満室状態で、雇用先はあっても夕張に住めないと



PROFILE

鈴木 直道

1981年埼玉県出身。1999年東京都府に入庁。翌年法政大学法学部法律学科に入学し、勤務の傍ら4年間で卒業する。2008年、財政破綻で職員が半減した夕張市市民課市民保険グループに派遣され2年2ヶ月間を夕張で過ごす。2010年、東京都府を退職して夕張市長選挙に出馬。初当選を果たし、全国最年少の30歳1ヶ月で夕張市長に就任した。



なかつか さえ
中塚沙絵

経済学部 経済法学科 4年

就職が内定し、社会人としての今後の生き方を模索していました。鈴木市長に「ひたむきに生きる人に人は集まり、必要とされる中で生きがいが見えてくる」と言われ、社会で頑張ろうという意欲が湧いてきました。



まつむら りさ
松村梨沙

経済学部 経営情報学科 3年

仕事や生活のリスクがある中で市長選に挑む決断をした鈴木市長の勇気に感服しました。「雑談の中にこそ市政のヒントがある」という言葉は、近隣地域交流活動のリーダーを務める私にも参考になりました。

いう、需要と供給のミスマッチが起きているのです。せっかくの企業の雇用意思に応えるために、現在夕張では公営住宅の入居条件の緩和や民間賃貸住宅の増設などに取り組んでいます。また、市内各所に点在する公営住宅を市中心部に集約し、高齢者の一人暮らしの方などが互いに寄り添って暮らせる地域づくりも進行中です。若い働き盛りから高齢者まで、安心して末永く暮らせる夕張を目指しています。

リーダーとして地域に寄り添い、決断する。

松村：ゼミ活動の一環で札幌市各区のイベント実施状況に関するヒアリング調査を行った際、市民の期待と行政サポートの実情にギャップを感じることがありました。鈴木市長は、市民の皆さんと関わる中で大切にしていることは何でしょうか？

鈴木：札幌のような大都市とは異なり、市民との距離が近いのが小さな町の良いところです。私は5人以上が集まる席に直接伺う「市長と話そう会」を実施しており、今まで300人以上の市民と直接対話をしました。市民の要望を聞くのはもちろん、市としてできること・できないことを明確にし、税金の使い道は優先事項を説明して理解を求めています。さらに市内13地区に地域担当職員を配置し、住民の声を直接聞いて市政に反映させています。全職員が地域と密に関わり、対話を重ねることで市民と市政とのギャップを埋めていかなければと考えています。



松村：私も近隣地域交流活動のリーダーを務めているので参考になります。

鈴木：リーダーとは決断が求められる存在です。短期間で情報収集して決断したとえ失敗してもすぐにフォローアップできるスピードと判断力も必要です。たとえば公営住宅の入居条件緩和も、一般入居者が入居しやすくなる一方で、低所得者層にとってはハードルが上がることになる。どういう結果になるかわからない怖さはあるけれど、常にこれが最善の決断となるよう努力するだけです。

苦しみを乗り越える経験が社会で活きる。

松村：私たちも就職を控えてさまざまな決断を迫られていますが、鈴木市長が夕張に人生を賭ける決断をされた理由は何だったのでしょうか？



鈴木：私が夕張市長選挙の出馬要請を受けたのは、2年2ヵ月間の夕張派遣を終えて帰京した直後でした。当時は婚約をして、埼玉県に自宅も購入したばかり。出馬のため都庁を退職しても勝てる保証はない。そんな事情を重々承知のうえで、私に市長選への出馬を頼んできた夕張に住む友人たちの気持ちを考えると、眠れないほど悩みました。でも気づいたんです。自分には断る理由はいくらでもあるのに悩んでいるのは、理由に関わらず「やりたい」自分がいるからだと。自分に嘘をつかずに「やりたいか、やりたくないか」を問うた末の決断でしたから、周囲が引き止めても揺らぐことはなかったですね。

中塚：都庁時代は勤務の傍ら大学に通い、ボクシング部の主将も務められたとか。ハードな生活を乗り越えた原動力は何だったのでしょうか？

鈴木：家庭の事情で高校卒業後に就職しましたが、大学でのキャンパスライフに憧れていたんです。ところが体育の単位取得のために入部したボクシング部が、じつは強豪部で部員はスポーツ推薦で入学した経験者ばかりでした。大変なことになったと思ったけれど、やるしかない。仕事のあと授業を受け、部活で厳しくしごかれ、試合に向けて減量し、レポートを書き……そんな苛酷な日々を乗り越えてきた根底には「自分が生まれた意義や役割を見つけたい」という燃え上がるような熱意があったように思います。「市長の仕事は大変でしょう」と言われますが、あの頃を思えばまだ頑張れます。自主性が重んじられる学生時代に、あえて苦しい道を選んで乗り越える。そんな経験が人間としての底力となり、社会で生きるものと信じています。

松村・中塚：私たちにとっても参考になるお話でした。ありがとうございました。



▲炭鉱の町・夕張の歴史を学ぶため鈴木市長におすすめしていただいた「石炭博物館」へ。実際の坑道や採炭現場を歩く炭鉱体験は臨場感たっぷりです。

◆夕張市は札幌から車で約1時間半。初めて夕張を訪れたふたり、市長との座談会を前に少し緊張気味。



▲10月19日、大学開学50周年記念公開講座の講師として鈴木市長が来学。地方再生をテーマに講演を行っていただきました。

大学開学50周年

北星学園大学は 半世紀の時を超えて 未来へ歩み続けます



1963年当時の大谷地新校舎用地

北星学園 創立者 サラ・C・スミス



北星学園は、1887年、アメリカ人宣教師であるサラ・C・スミスによって創立されました。1931年、80歳で帰国する時の服装が来日時のものと同じであったといわれているように、スミスは、自らのすべてを捧げ教育に取組み、幾多の困難を乗りこえて、今日の北星学園の基礎を築いたのです。「札幌の木」でもあるライラックは、北星学園の創立者スミスが1890年に一時帰国した際、故郷であるエルマイラから携えてきた苗木がその始まりとされています。

北星学園大学・開学50年の歩み

1962 北星学園大学開学（文学部／英文学科・社会福祉学科）

1963 南5条校舎焼失

1964 大谷地校地のプレハブ仮校舎で講義開始



移転当時の大谷地校地仮校舎の正面入口(1964年1月)

1965 経済学部経済学科設置
ルイス&クラーク大学(米国)と姉妹校提携
ウェブスター・グロウブス・ホール
(チャペル・図書館)竣工

1968 社会福祉夏季セミナー開始

1975 札幌市教育委員会と共に開催の公開講座開始

1980 専攻科開設
(文学専攻科／英文学専攻、社会福祉学専攻)
(経済学専攻科／経済学専攻)

1987 経済学部経営情報学科設置

1992 北星学園大学大学院開設
(文学研究科／社会福祉学専攻(修士課程))

1996 社会福祉学部設置
(福祉計画学科／福祉臨床学科／福祉心理学科)

2000 大学院、研究科増設(社会福祉学研究科社会福祉学専攻
(修士課程、博士[後期]課程)、心理学専攻(修士課程))

2001 大学院、研究科増設
(文学研究科／言語文化コミュニケーション専攻(修士課程))
(経済学研究科／経済学専攻(修士課程))

2002 学科設置(文学部／心理・応用コミュニケーション学科)
(経済学部／経済法学科)
女子短期大学、北星学園大学短期大学部に校名変更
(男女共学化)、大谷地に移転。
同時に、生活教養学科を生活創造学科に名称変更

2006 大学院、社会福祉学研究科心理学専攻を
臨床心理学専攻に名称変更

2012 北星学園大学・開学50周年
北星学園創立125周年



完成当時のチャペルと図書館、本校舎
(1965年4月)



1980年頃の1号館



北星学園大学開学50周年記念式典



北星学園大学
北星学園大学短期大学部
学長 田村 信一

北星学園大学は、50年前の1962年、文学部に英文学科と社会福祉学科の1学部2学科(男女共学)、それぞれ定員50人という小さな大学としてスタートしました。男女共学の文学部は私立大学としては道内最初でした。その後、この大谷地の地にて、1学年の学生数が開学当時の100人から現在1,000人を超える規模の大学となり、大学院を含めて4千400人の在学生を擁する大学に成長してきました。大学としての規模は拡大してきましたが、キリスト教の精神に基づく人格教育を基本理念とした親切で丁寧な少人数教育を開学以来守り続けています。また本学は、いち早く公開講座を実施し、各種セミナーや生涯学習講座(北星オープンユニバーシティ)の開設、図書館の一般開放など、広く地域社会へ貢献してきました。

北星学園大学は、これからも、豊かな人間性・社会性・国際性を培う教育を基盤とし、時代と地域社会のニーズに応えて、未来への歩みを続けて参ります。



現在の北星学園大学(2011年撮影)



2代目パイプオルガンが
新たな歴史を奏します。



チャペルの響きとの47年間
の調和にビリオドを打ち、保
管・修理中の旧パイプオル
ガン。

キャンパスの大谷地移転時よりチャペルに据えられていた初代パイプオルガン(ドイツ・ヴァルカー社製)は、道内最古の楽器の一つで、1965年に米国ハントティングリッジ長老派教会より寄贈されたものです。今年、開学50周年を記念して大学後援会・同窓会より新しいパイプオルガンが寄贈され、9月に入れ替えられました。新しいパイプオルガンは、本場ドイツのマイスターの称号を持つ名匠である松崎謙二氏・中里威氏が率いる日本のマナ・オルゲルバウ社が約1年2ヶ月かけて製作したもの。高さ5.4m・幅2.37mと、ひときわ大きな存在感を放っています。

新しいパイプオルガンは12ストップ、2段鍵盤+足鍵盤(平行ペダル)、10cmから3mまでのパイプ758本、カブラー3種。第1鍵盤にリード管ストップ(トランペット)、第2鍵盤にスウェルとトレモロをそれぞれ備え、さまざまなストップの組み合わせにより幅広いレパートリーの演奏と多彩な表現が可能です。これから礼拝や演奏会などで素敵なお色を響かせてくれることでしょう。その音色をお聴きいただく機会として、披露演奏会(第1回は12月3日)などチャペルコンサートを開催いたしますので、ぜひお越しください。



チャペルでの組み立てに約
1週間、整音に約2週間か
かりました。

大学開学50周年記念事業 [記念講演]

今年6月16日・30日に、大学開学50周年記念講演会が道新ホールで開催されました。「光が黒雲をつらぬくとき」のテーマのもと、16日には「雪はよごれていた—昭和史の謎 二・二六事件最後の秘録」などの作品で知られるノンフィクション作家・澤地久枝さんが「生き甲斐について」の演題で講演。30日には「飼育」「同時代ゲーム」など著書多数のノーベル賞作家・大江健三郎さんが「より人間らしく」と題して講演を行いました。激動の昭和を見つめたおふたりの説得力ある言葉に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



澤地久枝さん



大江健三郎さん

OB & OG Interview

卒業生は、いま。

いい温泉、いい人生、満喫中。

温泉にまつわる著書を多数上梓している旅行ジャーナリスト・小野寺淳子さん。

ただいま取材に執筆、テレビ出演、趣味の映画にバンドまで、パワフルに活躍中。

この元気の秘訣、やっぱり温泉かもしれません。



道内800湯を我が身で体感！

温泉との出会いは20代の頃。シングルマザーとして、またフリーライターとして多忙な毎日を送るうち、ストレスからアトピー性皮膚炎になってしまいました。ところがあるとき薬を忘れて温泉取材に出かけ、1週間滞在する間に肌がすっかりきれいに！温泉の力を実感して興味が湧き、温泉について学んだり足を運ぶうちに温泉コラムを執筆するようになりました。それが新聞社の目に止まり、1995年に「北海道の民営温泉」を出版させていただきました。その後何冊か出版し、ここ10年の集大成として今年10月に「北海道温泉大図鑑」を出版。10年間に800湯に宿泊し、料理やサービスなど細部まで取材し、自ら撮影も行いました。取材後に廃湯になった温泉などを除き、最終的に565湯を掲載。今までにない情報量を備えた温泉ガイドに仕上がったと自負しています。

いい湯にはいい人がいる。

温泉は家族の記念日や親孝行、自分へのご褒美など特別な思いで訪れる人が多い、幸せがこんこんと湧き出る場所。私はつねづね「宿は人なり、湯は人なり」と言っています。特別な時間を過ごす場所だからこそ、宿のもてなしやサービスがものを言う。そしてお湯の鮮度を保つための手入れ、

浴室や浴槽の清掃など、人が丹念に手をかけてこそ温泉は「名湯」になっていくもの。湯と人は切っても切り離せない関係なんですね。私は北海道だけではなくヨーロッパの温泉も大好き。普通の観光ツアーで地元の人と仲良くなるのは難しいけれど、温泉に入ると地元の人が気さくに声をかけてくれるのもうれしい。同じ湯につかると知らない者同士でも会話が生まれる「裸の付き合い」は、万国共通なんですね。私にとって温泉は心と体を癒してくれると同時に、人とのつながりを実感できる場所でもあるんです。

短大時代のご縁が今も。

短大時代も、友人や先生、アルバイト先など多くの人のつながりに恵まれました。今でも当時の友人に取材スケジュールの管理などサポートしてもらったり、当時短大があった南4条界隈の喫茶店にお邪魔したりしています。短大時代に学んだ英語も海外取材で役に立っているし、現在短期大学部の総合講義アセンブリでお話をさせていただくななど、北星とのご縁を感じます。学生時代は楽しい反面将来が見えない不安でいっぱいだったけれど、今はその不安も人生のステップだったとわかります。将来が見えないから目の前にある仕事に全力で取り組み、ある日「ここまで歩いてきた」と気づく。未知を知る喜びを知った今、これからの自分の人生がどうなっていくのか、とても楽しみです。



スイスやイギリス、スペインなどの温泉取材の資料。洒落たボトルの温泉水や古風な温泉利用の証明書は思い出も彩ってくれます。

近著「北海道温泉大図鑑」など著書多数。「次はヨーロッパの温泉ガイドを出版したい」とのこと。



Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

●社会福祉学部 福祉心理学科 今川 民雄 先生●

苦しみを乗り越えて成長する
人間の心を見つめて。



失恋を乗り越える「精神的回復力」を探る

現在の主な研究テーマは「失恋」。恋愛が失敗に終わった“傷つき体験”的なつらさや悲しみから立ち直るまでの行動や心の動きは人それぞれですが、その過程においてカギとなるのが「レジリエンス(resilience)=精神的回復力」です。レジリエンスは傷つき体験を乗り越えるとともに、自己成長の力にもなると考えられます。レジリエンスの強さは人それぞれですが、子どものうちから育てることができれば、失恋だけでなく社会のさまざまなストレスを乗り越える力となるかもしれません。レジリエンスを鍛えるために何が必要か、うまく活かすためにどう働きかけばよいかなど、まだまだ研究途上です。

1本の電話で命を救うために

もうひとつ、私が長年関わっている研究テーマが「いのちの電話」です。「いのちの電話」に電話をかけてくる人には、自殺を考えるまで追いつめられている人が少なくありません。表情が見えない電話相談で相手の気持ちに寄り添うために、臨床心理士としてどう対応すべきか。「いのちの電話」に関わって26年、研究は今も続いています。私自身も相談員を務めていた中で感じたのは、ただ話を聞いているだけで相手の声のトーンが徐々に明るく変化してくること。「話を聞いてもらう」という行為はそれだけで癒しにつながるんですね。全国50ヵ所のセンターに1年間に寄せられる電話は約76万件。さらに私が代表理事を務めるNPO法人「チャイルドラインさっぽろ」にも、18歳以下の子どもたちから毎日電話が寄せられます。大人も子どももつらい気持ちは同じ。少しでも「話してよかった」と思ってもらえる電話相談を提供できればと思っています。

課題解決のプロセスを成長の糧に

今春まで4年間、社会福祉学部の学部長を務めました。もともと研究畠の人間ですから、指名された当初は戸惑いました。でも「立場が変わって見えるものがあるかもしれない」と思い直して引き受けることに。社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正に伴うカリキュラム改編など重責を担うことも多くありました。大学全体に関わることで受け取る情報が量・質ともに飛躍的に進展し、仕事の幅も大きく広がりました。人間いくつになっても成長できるもの。学生諸君にも心理学はもちろん社会に出ても、さまざまな角度から課題を見いだし自ら解決するプロセスを通して成長し続けてほしいと願っています。



約4,500枚も所有する自慢のオールドレコード・コレクション。中にはプレスリーやビートルズなどの貴重な品も。

PROFILE

いま がわ たみ お
今川 民雄

1975年 3月 北海道大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了(文学修士)
1975年 4月 旭川医科大学医学部 文部技官
1976年 4月 旭川医科大学医学部 助手
1978年 4月 北海道教育大学教育学部旭川分校助手
1979年10月 北海道教育大学教育学部旭川分校講師
1981年10月 北海道教育大学教育学部旭川分校助教授
1989年10月 北海道教育大学教育学部旭川分校教授
~2002年3月
1993年10月 北海道教育大学大学院教育学研究科教授を併任
2002年 4月 北星学園大学社会福祉学部 福祉心理学科・同大大学院社会福祉学研究科教授を併任

〈今川先生の主な著書〉

- 「わたし」をみる・「わたし」をつくる
—自己理解の心理学—
(川島書店・1997年／共著)
- 非対面心理療法の基礎と実際
—インターネット時代のカウンセリング
(培風館・2005年／共著)
- 自殺予防いのちの電話 理論と実際
(ほんの森出版・2009年／共著)



奥様と出かける渓流釣りは15年来の趣味。
自然の中で日常を忘れる大切な時間です。

教育に生き、世界を見つめた76年。

土橋信男先生を偲んで



故 土橋 信男 学校法人北星学園理事長 追悼の言葉

2012年7月7日、天に召されました土橋信男理事長、元北星学園大学学長、北星学園大学名誉教授に、北星学園大学・北星学園大学短期大学部を代表して、心より哀悼の意を表します。

土橋先生は、1975年、教職課程科目「教育原理」の担当者として北星学園大学文学部に着任されました。学識豊かで親しみやすい講義は、笑顔と情熱にあふれたお人柄と相まって多くの学生を魅了し、全国で活躍する数多くの教員を育てました。

さらに、アメリカのシラキュース大学大学院で博士号をとられた土橋先生は、早くから国際交流と国際人養成の重要性を説かれ、国際交流委員長として交流の拡大と充実に心血を注がれました。とりわけ、ブレズレン大学連盟および大連外国语学院との交換協定の締結は、北星から海外へ留学する学生を飛躍的に増大させるとともに、海外からの多数の留学生をホームステイさせる、というユニークな方式を育て上げ、「国際交流の北星」の名を道内だけでなく、全国的に知らしめることになりました。

土橋先生は、このような国際交流に対する献身的なお働きと教育界におけるご活躍などが高く評価されて、1993年4月に北星学園大学学長に就任されました。学長に就任されたのちも土橋先生は、そのオープンな性格にふさわしく、学長室のドアを開け放たれ、様々な情報を教職員に発信し、リーダーシップを發揮して、道内初の学生による授業評価の導入などの改革の先頭に立たれました。よさこいソーラン祭りで、井原水産＆北星学園チームの横で大きな旗を振って応援されていた元気な土橋先生のお姿を忘ることはできません。

われわれは、土橋先生の北星学園理事長への就任とそのリーダーシップの發揮によって、学園に新たな展望が開かれることを期待していました。そんな矢先の土橋先生の突然の訃報は痛恨の極みです。しかしながら、悲しみに暮れるのではなく、土橋先生の望まれた改革を遅滞なく実行し前進することが、先生のご遺志を継ぐことだと確信しています。

最後になりましたが、皆様方の土橋先生への生前のご厚情に感謝し、ご遺族の皆様に神様のお慰めがありますようお祈り申し上げます。

2012年8月19日

北星学園大学 北星学園大学短期大学部
学長 田村 信一

■ 土橋信男先生の略歴

- 1936(昭和11)年3月 旧満州にて誕生
- 1946(昭和21)年7月 小学校3年生の時、山梨県に移住
- 1957(昭和32)年3月 山梨県立市川高等学校卒業
- 1961(昭和36)年3月 国際基督教大学教養学部卒業
- 1964(昭和39)年3月 国際基督教大学大学院修士課程修了(教育哲学専攻)
- 1974(昭和49)年3月 米国シラキュース大学大学院博士課程修了(高等教育行政学専攻)
- 1975(昭和50)年4月 北星学園大学文学部助教授
- 1980(昭和55)年4月 北星学園大学文学部教授
- 1993(平成5)年4月～2000(平成12)年3月 北星学園大学学長
- 2001(平成13)年4月～2002(平成14)年6月 札幌市教育長
- 2003(平成15)年4月～2012(平成24)年3月 学校法人桜美林学園理事
- 2003(平成15)年4月～2011(平成23)年3月 函館大学教授
- 2004(平成16)年4月～2011(平成23)年3月 桜美林大学大学院招聘教授
- 2004(平成16)年4月～2011(平成23)年3月 国立大学法人小樽商科大学監事
- 2011(平成23)年4月～2012(平成24)年7月 学校法人北星学園理事長
- ※2000(平成12)年11月 文部大臣から「社会教育功労賞」を受賞

「国際交流の北星」 育ての親として

ご自身もアメリカ留学を経験され、国際人の育成に尽力された土橋先生。北星から海外への留学推進はもちろん、海外からの留学生の受け入れにも意欲的に取り組まれました。1980年にアメリカのルイス・アンド・クラーク大学から留学生を受け入れた際には、バス旅行やピクニックに参加して留学生との交流を自ら楽しめたことも。「どばちゃん」の愛称で教え子たちから親しまれた土橋先生の学生を愛する気持ちに、国境はありませんでした。



1980年6月 ルイス・アンド・クラーク大学
留学生の洞爺・有珠方面バス旅行



1986年 教育原理の授業



1997年9月12日 学園創立110周年記念講演会
イーデス・ハンソンさんとの記念撮影



2011年4月 理事長として挨拶された入学式